

新米区会議員奮闘記

都民の会の皆さん今日は！ 私は、平成7年の区議会議員選挙で、初めて品川区議会議員にさせていただきました渡辺あけみです。それまでは、一般企業の役員秘書をしておりましたので、政治の世界とは、全く無関係でした。

しかし、松原仁都議会議員（当時）の秘書をさせていただくようになってから、地域問題、そして、女性の社会進出問題などに関心を持つようになりました。保育園、母子家庭、ゴミ問題等、本来女性が関わるべきことも、発言の場（議会）に女性がいない為、男性の視点で決定されてしまうことが、多くあることも学びました。

そんな時、平成維新の会に入会させていただき、大前研一氏より、“治療を医者に、教育を先生に、政治を政治家に任せるのではなく、主体的に参加しよう！”との講演を聴き、立候補を決意いたしました。それから、無我夢中の毎日でした。毎朝、品川区の何処かの駅にたち、マイクを握りました。

“もっと政策を訴えよ”との声もありましたが、私の政策は“女性の視点、区民の視点”でしたので、まず“渡辺あけみ”を知って頂くことに、必死でした。告示期間中は、品川・太田の維新の会のメンバーの方に、ポスター貼り、電話かけ等、大変お世話になってしまいました。お蔭様で、当選を果たすことができました。

当選後も、まったくの素人、わからないことだらけでした。議会独特の慣習。また、区職員との微妙な力関係等“何故？”と思うことが多々あり、困惑の日々でした。

一年目は、厚生委員会に所属し、乳幼児の医療費助成を現在の3才までを6才までに、という共産党提出の条例改正案に、当時3才児の母でもあったので、即座に賛成を致しました。ところが、これからが大騒ぎ。区長与党が、共産党の案件に賛成した前例がないそうで、党の担当者、区議会事務局を巻き込んだ大騒動になってしまいました。

次の年も、厚生委員会で“保育園におけるお泊り保育の区による一方的廃止に反対する請願”に、与党議員として唯一人、紹介議員として署名をし、またまた、保育課長、党を巻き込んで大変でした。お泊り保育とは、年長保育の大きな行事として、保護

品川区議会議員 渡辺あけみ

者にも、園児にも人気が高かったもので、1泊だけ親と離れて、保育園で保母さんと泊まる、というものでした。ところが、区は、特に説明もないまま、“保育園は、保護者が保育できない時に、措置として預かるところで、宿泊は趣旨に反する”と、議論もせず、廃止を決定してきました。

その奥には、別の理由もあるようですが、その一方的な決定に、私は反対をいたしました。すると、今度は、区の職員だけでなく、与党の他の議員からも、文句をいわれてしまいました。そこで、私の後援会の方が、マスコミ各社にFAXをいれてくださり、厚生委員会に、テレビ局は来るは、新聞に出るは、またまた、大騒ぎ。

私は、地方議会においては、どこの政党・会派が提出した案件であれ、そのことが財政を圧迫せず、住民の視点からみても適正なものには、個人の良識として賛否を問うべきである、と考えております。与党であろうと、野党であろうと、いいものはいい、だめなものは駄目、そんな単純なことが、いえない議会を、本当に不思議に思います。

つい先日の委員会では、そんな、当たり前がついに勝ちました。昨年の決算で、学童クラブ（学童保育）のエアコン設置費用が、1ヶ所、床面積47㎡約190万円となっております。あまりの高さに、営繕課に確認すると、東京都の工事仕様に基づいているとのこと、早速仕様基準書を取り寄せ、近隣の電気屋さんに概算の見積もりをお願いしたら、なんと、1/3でできるというのです。委員会で、それらの資料を提出して、追求したところ、翌年の予算からは、大幅な減額を図ることができ、設置個所を増やすことができました。

長く議員をやってらっしゃると、意外に当たり前のことが、気付かなくなってしまうのかもしれない。私はこれからも、演説が下手だ、とおこられながらも、区民として、女性としての、“当たり前”を素朴な“？”を議会で発言することを続けてまいりたいと思っております。そして、一人でも多くの区民の方が、区政をはじめとする政治にもっともっと関心を持って頂けるように活動してまいります。

都民の会の皆様よりの、ご意見、ご叱責を心待ちにしております。

神戸小学生殺人事件 考察その2

世田谷区 梶原光恵

文芸春秋に掲載された「少年の供述調書」を読んだ。昨年五里霧中だった少年Aの事が少しずつイメージされて来るようになった。少年法云々の被害よりも、その功績の方が大きい。

この供述から見ると、少年はかなりの想像力の持ち主である。幼少の時から感性が豊かだったのだろう。たぶん南の島育ち特有の祖母の信仰心だけが、彼を理解し包容し得る力を持ち、現実的と思われる両親には相容れない関係が存在したと考えられる。

また柳美里氏の言う通り、彼は自分のイメージ通りの犯人像を演じ続けている。まるで役者のように…。その証拠に「僕はもうお母さんの子供じゃなく

なったんだ」と言って未だに両親とは会っていない（3/30現在）。

中学生位の時は、やたら眠く怠惰な生活を送り易い。また心の中に善い子と悪い子が同居しているものである。それがどんどん悪い方へ転がり込むのは「親の無関心」が原因である。叱りはしても理解することはなかったようだ。祖母の死から立ち直れないでいる息子の心を癒すより、叱咤する母親なのではないか。「いつまでメソメソしてるのよ」と言うような。心の奥底を理解されないと感じたまま月日が経ち、親とは距離を置くようになる。

泣く時は大いに声を出し涙を流す事が感受性の強